

志學館大学学生に対する 生活調査の結果

令和元年 10月

志學館大学学務委員会

志學館大学 IR室

1. 趣旨

学生の生活実態、学修行動、大学の施設等への満足度は、教育の質の向上を図るための諸施策を企画・実施するために必須の基本情報である。志學館大学では、これらの情報を収集するために、学務委員が中心となって、学生に対する電子的アンケート調査を実施した。

本報告において、特に断りのない場合、[] 内の数値は、過去2カ年間に実施した同調査（以下「H30 調査」「H29 調査」という。）における値を示し、[H30 調査、H29 調査] の順で示す。

2. 資料

全学学生（大学院学生を含む。以下、同じ。）1,375 [1,311、1,249] 人を対象に、ユニバーサルパスポートシステムを通じて、以下のカテゴリーに分けられる30 [33、28] 件の設問に答えて貰った。

- (1) 学生の属性に関する情報
- (2) 住居・通学手段等
- (3) 学修行動
- (4) 本学の施設への満足度
- (5) 生活困窮度とアルバイト
- (6) 心身の健康度
- (7) 大学生生活全般への取り組みと満足度

令和元年8月23日から9月7日までの間に、計565 [643、417] 人（男子276 [304、200] 人、女子253 [339、217] 人、無回答36）の学生から回答があった（回収率41.1% [49.0%、33.4%]）。なお本年度調査より性別に関しては、任意回答項目としたため、無回答がある。

学年別では、低学年ほど回答数が多く、高学年の回答数が少なかった。学科等別では、回答率は学生現員数比に照らすと人間文化学科が幾分多く、法ビジネス学科で少なかった。しかしながら調査に影響を与えるほどの資料の偏りは大きくはないと判断した（表1）。

表1 調査で得られた資料数

学年	人数	学科等	人数
1年生	272	心理臨床	232
2年生	145	人間文化	122
3年生	67	法律	144
4年生	76	法ビジネス	66
5年目以上	5	大学院	0
大学院生	0	その他	1
その他	0	合計	565
合計	565		

3. 分析結果

住居及び通学手段等： 学生の住居は、自宅（親族と同居）が405 [463、293] 人（回答総数の72 [72、70] %）と最も多く、次にアパート・マンションが多かった。寮生は3.9 [5、3] %と少なかった。

表2 住居及び通学時間

回答	回答数	比率%	回答	回答数	比率%
自宅	405	71.7	15分以下	113	20.0
親類知人	6	1.1	30分以下	108	19.1
アパート・マンション	130	23.0	60分以下	135	23.9
寮	22	3.9	90分以下	70	12.4
下宿	2	0.4	120分以下	26	4.6
その他	0	0	120分を超える	4	0.7
合計	565	100.1	合計	456	80.7

通学時間（家から大学までの片道所要時間）の長短はさまざまで、概ね90分以下でばらついていた。最短では1 [1、3] 分である一方、120分を超える者もいた。

通学手段については、複数の手段を利用している場合はすべてを答えて貰った。乗物を使わず徒歩のみの者は、129人(23%) [159(25%)] であった。個人的な交通手段（自転車、バイク、自家用車（送迎を含む））を用いている者は合計243人(43%)

[297(46%)、210(50%)] で、公共交通手段（JR、市電、バス、フェリー）を利用している者は合計360人(64%) [397人(62%)、274人(66%)] であった。2つ以上の乗物を併用している者は140人(25%)

[170人(26%)]、JRとフェリーを合わせて194人(34%) [217人(34%)、137人(33%)] であるのは、通学時間が長い者が少なくない事実と対応し、本学学生の通学圏が極めて広いことを示唆している。これらの比率は、H30調査、H29調査における比率とほぼ同じであった。

表3 通学手段（移動手段すべて）

回答	回答数	比率%
乗物を使わず徒歩のみ	129	22.8
自転車	97	17.2
バイク	83	14.7
自家用車	28	5.0
自家用車（送迎）	35	6.2
JR	183	32.4
市電	69	12.2
バス	97	17.2
フェリー	11	1.9
その他	7	1.2
合計	739	130.8

学修行動等： 1週間あたりの平均通学日数（今年7月）は、5日(57%) [56%、53%] がもっとも多く、中には6日・7日と土日も大学に来ている者もいた。4 [5、4] 日以上大学に来ている者の合計は87% [88%、83%] で、出席状況は概して悪くはないと言える。ただし、学修状況が芳しくない学生は本アンケートに答えていない率が高いと想像できることから、この分析結果にはある程度の留保が必要だろう。

大学に来た時に大学に留まっていた時間は1時間未満から8時間以上まで大きくばらついていたが、緩やかなモードは4時間から6時間あたりにあり、平均値は約5.5 [5.4] 時間程度であった（回答が最初から階級分けされたものであったので、近似値である）。この値は、H30調査及びH29調査とほぼ同じで、本学学生は一度登校すると、大学に長くどどまる傾向にあると判断できる。これは、通学時間が長いこと、本学周辺にキャンパスを離れる要因となる学生街等がないこと、サークル活動が学生生活の大きな部分を占めている学生が多いことなどが要因なのではないかと考える。

表4 週あたり通学日数及び日当たり在学時間

通学日数/週	回答数	比率%	在学時間/日	回答数	比率%
0日	5	0.9	1時間未満	7	1.2
1日	16	2.8	～2時間未満	19	3.4
2日	18	3.2	～3時間未満	40	7.1
3日	32	5.7	～4時間未満	92	16.3
4日	106	18.8	～5時間未満	137	24.2
5日	322	57.0	～6時間未満	104	18.4
6日	34	6.0	～7時間未満	78	13.8
7日	32	5.7	～8時間未満	51	9.0
合計	565	100.1	8時間以上	37	6.5
			合計	565	99.9

平日（令和元年前期）に予習に当てる1日の平均時間は1時間未満、1時間以上2時間未満が多く、233人(41%) [257人(39%)] であった。平均値は31分 [26分] 程度であった。一方、「まったくしなかった」者は72人(13%) [108人(17%)] おり、これに無回答者を含めると323

人(57%) [382人(59%)]になる。

週末の予習時間は、「1時間未満」が131人(23%) [142人(22%)]で、「まったくしなかった」者111人(20%) [144人(22%)]に無回答者を合わせると367人(65%) [428人(67%)]であった。平均値は29分 [26分]で平日と違いはなかった。

平日の復習時間でも「1時間未満」が173人(31%) [187人(29%)]と多く、「1時間以上2時間未満」と合わせて252人(45%) [292人(45%)]であった。「まったくしなかった」者は55人(10%) [76人(12%)]であり、無回答者と合わせて302人(53%) [349人(54%)]になる。平均値は36分 [34分]程度であった。

週末の復習時間は、「1時間未満」が多く137人(24%) [142人(22%)]であり、「1時間以上2時間未満」と合わせて209人(37%) [227人(35%)]であった。「まったくしなかった」者は84人(15%) [111人(17%)]であり、無回答者と合わせて336人(56%) [394人(61%)]であった。平均値は37分 [35分]程度で、平日とほぼ同じであった。

表 5-1 平日の日当たり学修時間及び週末の日当たり学修時間 (予習)

[平日] 回答	回答数	比率%	[週末] 回答	回答数	比率%
無回答	251	44.4	無回答	256	45.3
まったくしなかった	72	12.7	まったくしなかった	111	19.6
1時間未満	187	33.1	1時間未満	131	23.2
～2時間未満	46	8.1	～2時間未満	54	9.6
～4時間未満	8	1.4	～4時間未満	12	2.1
4時間以上	1	0.2	4時間以上	1	0.2
合計	565	99.9	合計	565	100.0

表 5-2 平日の日当たり学修時間及び週末の日当たり学修時間 (復習)

[平日] 回答	回答数	比率%	[週末] 回答	回答数	比率%
無回答	247	43.7	無回答	252	44.6
まったくしなかった	55	9.7	まったくしなかった	84	14.9
1時間未満	173	30.6	1時間未満	137	24.2
～2時間未満	79	14.0	～2時間未満	72	12.7
～4時間未満	10	1.8	～4時間未満	18	3.2
4時間以上	1	0.2	4時間以上	2	0.4
合計	565	100.0	合計	565	100.0

授業に関連しない学習を平日に行っている時間は、「1時間未満」が128人(23%) [144人(22%)]で、「1時間以上2時間未満」と合わせて182人(32%) [200人(31%)]であった。「まったくしなかった」者は108人(19%) [133人(21%)]であり、無回答者と合わせて363人(64%) [413人(64%)]であった。平均値は35分 [35分程度]であった。

週末の授業無関連学習時間は、「1時間未満」が101人(18%) [109人(17%)]であり、「1時間以上2時間未満」と合わせて人157人(28%) [181人(28.2%)]であった。「まったくしなかった」者は115人(20%) [137人(21%)]であり、無回答者と合わせて374人(66%) [425人(66%)]であった。平均値は45分 [42分程度]であった。

また予習、復習、授業外の学習を合計した平日の総学習時間は、平均値が96分 [93分]程度であり、週末では108分 [101分]であった。

表 5-3 平日の日当たり学修時間及び週末の日当たり学修時間（授業に関連しない学習）

[平日] 回答	回答数	比率%	[週末] 回答	回答数	比率%
無回答	255	45.1	無回答	259	45.8
まったくしなかった	108	19.1	まったくしなかった	115	20.4
1時間未満	128	22.7	1時間未満	101	17.9
～2時間未満	54	9.6	～2時間未満	56	9.9
～4時間未満	12	2.1	～4時間未満	22	3.9
4時間以上	8	1.4	4時間以上	12	2.1
合計	565	100.0	合計	565	100.0

表 5-4 平日の日当たり学修時間及び週末の日当たり学修時間（合計）

[平日] 回答	回答数	比率%	[週末] 回答	回答数	比率%
無回答	259	45.8	無回答	262	46.4
まったくしなかった	37	6.5	まったくしなかった	52	9.2
1時間未満	52	9.2	1時間未満	45	8.0
～2時間未満	115	20.4	～2時間未満	92	16.3
～4時間未満	82	14.5	～4時間未満	74	13.1
4時間以上	20	3.5	4時間以上	40	7.1
合計	565	99.9	合計	565	100.1

さらに上記の各学習時間間の間の相関関係を検討すると、予習と復習は平日も週末もセットで行い、平日の学習が多ければ週末も多くしているという傾向が見られた。しかしながら平日及び週末の予習復習と平日及び週末の授業外学習との間には、ほとんど相関は見られず、逆に平日の授業外学習と週末の従業外学習との間には極めて強い相関 ($r=.85, p<.001$) [$r=.85, p<.001$]が見られた。

サークル活動等への参加状況では、加入していない者が210人(35%) [211人(33%)、138人(33%)]であった。参加者の中では、体育系サークル、文科系サークルの参加はそれぞれ119人(21%) [178人(28%)、217人(38%)] [246人(38%)]であり、両者を合わせて336人(59.5%) [424人(66%)、284人(68%)]が参加していた。その他、学友会役員会、银杏祭実行委員会に参加している者が合わせて30(5.3%) [26人(4%)、17人(4%)]いた。これらの結果からは、37人 [41人、36人]又はそれに近い人数は複数の活動に参加しているとみられる。

サークル等への参加状況を見ると、学生が授業科目の履修以外のさまざまな活動を活発に行っていると判断できる。

表 6 サークル等への参加状況

回答	回答数	比率%
加入していない	210	37.2
体育系サークル	119	21.1
文化系サークル	217	38.4
学友会役員会	18	3.2
银杏祭実行委員	12	2.1
学外のサークル・団体	12	2.1
その他	16	2.8
合計	604	106.9

大学の施設への満足度とニーズ：「授業以外で最もよく利用する学内施設はどこですか」 [「大学内での「居場所」はどこですか」と問うたところ、「カフェテリア」が152人(27%) [245人(38%)、171人(41%)]で、H29調査、H30調査に引き続き最も多かったがその割合は減少している。次いで、「コスモスホール」、「図書館」、「空いている教室」の順で多く、これら合計が249人(441%) [260人(41%)、167人(41%)]であった。カフェテ

リア、29年度にリニューアルしたコスモスホール、図書館が学内のアメニティ空間としての役割を果たしていることが、浮き彫りになっていると考える。

図書館への満足度を聴いたところ、「非常に満足」と「どちらかという満足」の両者を合わせて493(87%) [544人(85%)、351人(84%)]で、満足度は高いと判断できる。不満なところとしては、まず「不満なところはない」とした者が380人(回答者中の64%) [401(62%)、236人(57%)]であった。残る185人 [242人、181人]が挙げた不満のうち、「蔵書の種類や冊数」が117件(21%) [149件(23%)、103件(24%)]で最も多かった。「開館時間」、「貸出しサービス」、「情報の案内の仕方」等のソフト面での不満はいずれも多くはなかった。一方、「利用者のマナー」といった、利用者側の問題点の指摘も15件(2.7%) [23件(4%)、13件(3%)]あった。

表7 よく利用する学内施設

回答	回答数	比率%
特にない [居場所はない]	125	22.1
カフェテリア	152	26.9
図書館	92	16.3
コスモスホール	120	21.2
本館3階ロビー (学習室)	15	2.7
空いている教室	37	6.5
その他	24	4.2
合計	565	99.9

表8 図書館への満足度と不満がある事項

回答	回答数	比率%	回答	回答数	比率%
非常に満足	170	30.1	開館時間	32	5.7
どちらかといえば満足	323	57.2	蔵書の種類や冊数	117	20.7
どちらかといえば満足していない	61	10.8	貸し出しサービス	12	2.1
まったく満足していない	11	1.9	情報の案内の仕方	20	3.5
合計	565	100.0	利用者のマナー	15	2.7
			その他	19	3.4
			合計	215	38.1

コンピュータ室については、「非常に満足」と「どちらかという満足」の両者を合わせて528人(94%) [583人(91%)、372人(89%)]で、満足度は高いと判断できる。不満な点を具体的に上げて貰ったところ、「不満なところはない」とした者が387人(回答者中の65%) [415人(65%)、237人(57%)]であった。残る178人 [228、180]人が挙げた不満のうち、「利用できるパソコンの台数」が99件(18%) [83件(12%)、76件(18%)]と最も多く、「パソコンの処理能力やアプリの不足」と合わせて120件(21%) [119件(19%)、100件(24%)]であった。一方、「利用者のマナー」の問題点の指摘が43件(8%) [76件(12%)、55件(13%)]あった。

表9 コンピュータ室への満足度と不満がある事項

回答	回答数	比率%	回答	回答数	比率%
非常に満足	255	45.1	パソコンの処理能力やアプリの不足	21	3.7
どちらかといえば満足	273	48.3	利用できるパソコンの台数	99	17.5
どちらかといえば満足していない	33	5.8	サポート体制	18	3.2
まったく満足していない	4	0.7	利用者のマナー	43	7.6
合計	565	99.9	その他	30	5.3
			合計	211	37.3

カフェテリアについては、「非常に満足」と「どちらかという満足」の両者を合わせて476人(84%) [544人(85%)、307人(74%)]で満足度は高いと判断できる。不満なところはないとした者が347人(回答者中の52%) [350人(54%)、189人(45%)]であった。残る218人 [293人、227人]が挙げた不満のうち、「メニューの品揃え」63人(11%) [99人(15%)]、「価格」64人(11%) [95人(15%)]をあげる者が多かった。また「机や椅子の配置など環境」に対する不満は75人(13%)も多く、スペースの狭さやテーブル数の不足を反映していると考えられる。

表 10-1 カフェテリアへの満足度と不満がある事項

回答	回答数	比率%	回答	回答数	比率%
非常に満足	226	40.0	味	22	3.9
どちらかといえば満足	250	44.2	価格	64	11.3
どちらかといえば満足していない	73	12.9	営業時間	32	5.7
まったく満足していない	16	2.8	メニューの品揃え	63	11.2
合計	565	99.9	アレルギー情報等の表示	7	1.2
			机や椅子の配置など環境	75	13.3
			利用者のマナー	42	7.4
			その他	15	2.7
			合計	320	56.7

コスモスホールについては、「非常に満足」と「どちらかという満足」の両者を合わせて525人(92%) [602人(93.6%)]で、満足度は高いと判断できる。

表 10-2 コスモスホールへの満足度

回答	回答数	比率%
非常に満足	281	49.7
どちらかといえば満足	244	43.2
どちらかといえば満足していない	28	5.0
まったく満足していない	12	2.1
合計	565	100.0

生活困窮度とアルバイト： アルバイト収入を得る前に、金銭的な面で生活の余裕はあるかとの問いに、65人(12%) [89人(14%)、37人(9%)]が「非常に苦労している」と答え、「どちらかといえば苦労している」と合わせて266人(47%) [324人(50%)、205人(49%)]であった。一方、アルバイト経験の有無では、423人(75%) [512人(80%)、341人(82%)]が経験をしていた。アルバイト収入を得たのちの金銭的な生活の余裕については、28人(5%) [35人(5%)]が「それでも非常に苦労している」と答え、「どちらかといえばまだ苦労している」と合わせて、157人(28%) [191人(30%)]であった。

令和元年度前期の期間のアルバイトの頻度を聞いたところ、1週間に3～4回程度のアルバイトを行っている者が210人(37%) [242人(38%)、165人(54%)]で最も多く、5回以上行っているものを合わせると236人(42%) [295人(46%)]であった。

令和元年6月と7月の月間アルバイト収入を聞いた。下の表の数値はその2か月間の平均値である。月間アルバイト収入は4万円から8万円の間の者が104人(本設問回答者の39%) [126人(38%)、100人(40%)]で最も多かった。本設問回答者の平均月間アルバイト収入は約3.9万円 [4.3万円、4.0万円]万円であった。なお、8万円を越えるアルバイトを行っている者が14人(3%) [33人(5%)、12人(5%)]おり、最大値は12.4万円 [15.5万円、13万円]であった。

表 11 生活困窮度とアルバイト経験の有無

【アルバイト収入を得る前】

回答	回答数	比率%	回答	回答数	比率%
非常に苦勞している	65	11.5	アルバイト経験あり	423	74.9
どちらかと言えば苦勞している	201	35.6	なし	140	24.8
どちらかと言えば苦勞していない	239	42.3	わからない	2	0.4
余裕がありお金で苦勞はしていない	60	10.6	合計	565	100.1
合計	565	100.0			

【アルバイト収入を得たのち】(アルバイト経験者)

回答	回答数	比率%
それでも非常に苦勞している	28	5.0
どちらかと言えばまだ苦勞している	129	22.8
どちらかと言えばもう苦勞していない	171	30.3
余裕ができお金で苦勞はしていない	71	12.6
合計	399	70.6

上記の困窮度の質問で「非常に困っている」と答えた65人[89人、37人]のうち、38人[55人、25人]がこの質問で収入があった(残りの27人[34人、12人]人は困窮していても少なくとも6月と7月には、アルバイトはしていない)。一方、8万円を超える収入があった者のうち、アルバイト収入を得たのちも「それでも非常に苦勞している」と答えたものが、3人[6人]いた。

アルバイトに伴って発生するトラブルについて問うた。アルバイトなしとアルバイト先とのトラブル経験なしとの回答が合わせて530人(90%) [580人(85%)、284人(87%)]であったのに対して、残りの者から57件[99件、77件]のトラブルが挙げられた。「給料の未払いがあった」「サービス残業を強いられる」という悪質なものが7件(12%) [15件(15%)、16件(21.22%)]であった。「休みを申し出ても休ませてもらえない」、「辞めたくても辞めさせてもらえない」、「無理なシフトを強制されることが多い」等の、悪質度はやや低くても学業に悪影響を及ぼすようなトラブルが、合計34件(60%) [60件(61%)、34件(44.48%)]と多かった。

表 13 アルバイト上のトラブル

回答	回答数	比率%
アルバイトなし	167	29.6
トラブルなし	363	64.2
給料の未払いがあった	2	0.4
休みを申し出ても休ませてもらえない	7	1.2
辞めたくても辞めさせてもらえない	10	1.8
無理なシフトを強制されることが多い	17	3.0
サービス残業を強いられる	5	0.9
その他のトラブル	16	2.8
合計	587	103.9

身体と気持ちの健康度： 令和元年6月から7月までの期間の身体の健康状態を聞いたところ、「健康で調子が良かった」と「まあまあ調子は良かった」を合わせて476人(84%) [557人(87%)、364人(88%)]であったが、「調子が悪かった」との回答が23人(4%) [25人(4%)、9人(2%)]いた。同じ期間の気持ち・メンタルな面での健康状態では、33人(6%) [44人(7%)、27人(6%)]が「調子が悪かった」と答えた。

表 14 身体と気持ちの健康度

回答 (身体)	回答数	比率%	回答 (気持ち)	回答数	比率%
健康で調子が良かった	237	41.9	健康で調子が良かった	167	29.6
まあまあ調子は良かった	239	42.3	まあまあ調子は良かった	270	47.8
少し調子が悪かった	66	11.7	少し調子が悪かった	95	16.8
調子が悪かった	23	4.1	調子が悪かった	33	5.8
合計	565	100.0	合計	565	100.0

「大学内に気の合う人やよく話す人はいるか」
 [「大学内に仲のよい友達はあるか」]との問いに、43人(8%) [32人(5%)、24人(6%)]がいないと、47人(8%) [54人(8%)、31人(7%)]が「分からない」と答えた。これらの者は大学生活の中で孤立化・浮遊化している学生である可能性があるため、十分なモニタリングが必要である。

表 15 大学内に気の合う人やよく話す人がいるか

回答	回答数	比率%
いる	475	84.1
いない	43	7.6
分からない	47	8.3
合計	565	100.0

大学生生活全般への取り組みと満足度： 「大学卒業後の進路を見据えて何らかの準備をしているか」との問いに対し、「一生懸命に取り組んでいる」、「ある程度は取り組んでいる」、「計画があり、現在取り組みつつある」という積極的な回答が合計 368人(65%) [379(59%)、272人(65%)]であった。ただし、「準備をする気持ちがない、気持ちになれない」と「分からない」が合わせて 41人(7%) [69人(11%)、29人(7%)]おり、なんらかの対処が必要である。

「自分の大学生生活全般への満足度」を問うたところ、「大いに満足している」、「やや満足している」を合わせて 338人(60%) [373人(58%)、240人(57%)]であった。一方、「やや満足していない」、「まったく満足していない」、「分からない」を合わせて、73人(13%) [93人(15%)、62人(15%)]いた。

表 16 大学卒業後の進路を見据えた準備と大学生生活全般への満足度

回答	回答数	比率%	回答	回答数	比率%
一生懸命に取り組んでいる	105	18.6	大いに満足している	91	16.1
ある程度は取り組んでいる	164	29.0	ほぼ満足している	247	43.7
計画があり、現在取り組みつつある	99	17.5	どちらとも言えない	154	27.3
計画はあるが、行動はしていない	67	11.9	やや満足していない	35	6.2
ほとんど何もしていないが、取り組む気持ちはある	89	15.8	まったく満足していない	32	5.7
準備をする気持ちがない、気持ちになれない	15	2.7	分からない	6	1.1
分からない	26	4.6	合計	565	100.1
合計	565	100.1			

4. まとめ

本学学生の通学時間や通学手段の各比率は、H30 調査及び H29 調査とほぼ変化はなかった。通学時間が 60 分以下の学生は、H30 調査の 68%から R1 調査では 63%とわずかに減少したが、一部に極めて長い学生もいた。それら学生にとっては、学修時間やサークル活動に費やすことができる時間の上で、ハンディキャップになっている可能性が、依然としてある。

登校状況、登校した場合の滞在時間は、H30 調査及び H29 調査とほぼ同じで、概して良いと判定できる。授業外での総学修時間に関しては、平日及び休日いずれにおいてもわずかではあるが、その増加を見て取ることができる。ただし全体的には、学習に費やしている時間の点では不十分な学生が多いこともあらためて示された。シラバス上での事前事後学習内容の具体的明示等を開始し、また H30 調査より学習時間に関する質問の精度を高めたので、今後もその変化を継続的に測定し、学修を促す方途の検討を進めていく必要がある。

経済的に困窮している（「非常に苦勞している」「どちらかと言えば苦勞している」とした学生の割合は、H30 調査及び H29 調査とほぼ同率で約 50%であった。学生の大半（約 8 割）がアルバイト経験があり、アルバイト収入を得た後でも困窮しているとした学生は、約 3 割にのぼる。

施設については、図書館、コンピュータ室、カフェテリアの満足度は、H30 調査及び H29 調査に引き続き概して高かった。H30 調査からは、これに加えて改装されたコスモスホールについても尋ねたが、満足度は非常に高く、また学内における居場所として機能していることも示された。また R1 調査より、学内での「居場所」についての問いは、「授業以外でよく利用する学内施設はどこか」を問うものに改めたが、「（学内でよく利用する施設は）特にない」としたものが、約 2 割程度いた。大学にいる間は授業に出ているのなら良いが、「居場所がない」のであるなら、アメニティ空間の創造については今後も検討を進めていく必要がある。

心身の健康についての回答割合は、H30 調査及び H29 調査結果とほぼ近いものとなり、大きな変化は見られていない。大学内に仲の良い友人がいるかを問う項目は、R1 調査より「気の合う人・よく話す人の有無」を尋ねるものに改めたが、「いる」とした学生の割合は、H30 調査で「学内に仲の良い友人がいる」とした学生の割合とほぼ同じであった（約 8 割）。またやはり身体及び気持ちの部分で「調子が悪い」とした学生も一定数、変わらず見いだすことができた。

将来を見据えた準備状況に関しても、H30 調査及び H29 調査の結果とほぼ変化はなく、積極的な取組を約 6 割が示した一方で、準備をしていないことをうかがわせる層もやはり見受けられる。

R1 調査は、H30 調査及び H29 調査をふまえ、一部を除き、質問内容をほぼ固定して実施した。今後もこの方向性を維持することで、単年度の吟味に加えて、その変化に関する検討が可能となる。また次年度以降は、いわゆる高等教育負担軽減政策導入に伴って、これまでとは階層の異なる学生が入学してくる可能性も考えられる。今後も本調査を継続し、本学学生の諸特徴を捉える定点観測データを提供していくとともに、本学の各種施策・取組の方向性の検討や効果性の検証の際に活用していくための工夫が必要であろう。